

伝えたい 平和の大切さ

3月1日は「枚方市平和の日」

3月1日は枚方市にとって、平和の大切さを考える日です。1939(昭和14)年には、禁野火薬庫が大爆発し、1954(昭和29)年には、マグロ漁船の第五福竜丸がビキニ環礁でアメリカ軍が行った水爆実験に遭遇し、被ばくした日だからです。1989(平成元)年、市は2つの大惨事を風化させず、市民一人ひとりが平和の大切さを考える日にしようと、3月1日を「枚方市平和の日」に制定しました。

毎年2月～3月には「平和の燈火」や「ひらかた平和フォーラム」等を開催し、平和の大切さを伝え続けています。



平和の燈火

平和の祈りを込め、メッセージが描かれたキャンドルを灯します。毎年、大学生による実行委員会が企画・運営を行っています。

ひらかた平和フォーラム

小中学生による平和学習の発表と平和をテーマに様々なゲストを招いた講演を開催しています。



行ってみよう！戦争遺跡

市内には、戦争遺跡や平和のモニュメントがたくさんあります。市が発行する「枚方市平和ガイド」を見ながら実際に歩いてみましょう！



市ホームページ



非戦の誓いの碑



戦時中、香里製造所で学徒動員されていた女学生の有志が平和を誓うため、2008(平成20)年に建立し、市に寄贈されました。

妙見山の煙突



香里製造所で砲弾の火薬を乾燥させるボイラーに付いていた高さ20mの煙突。「不戦と平和」のシンボルとして残され、普段は近くで見ることができませんが、毎年、春と秋に見学会を開催しています。

核兵器のない世界の実現に向けて

2024(令和6)年、広島・長崎の被爆者の全国組織である日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)がノーベル平和賞を受賞しました。

長年にわたり、自らの体験を語り、核兵器廃絶を訴え続けてきた被爆者の思いを次の世代へつなぐことが今、求められています。



スピーチをする日本被団協の田中照巳さん(朝日新聞社)

大阪で初めて非核平和都市を宣言

核兵器の悲惨さと平和の尊さを伝え、訴え続けていくため、市は1982(昭和57)年、大阪府内で初めて「非核平和都市」を宣言しました。現在は、核実験を実施した国などに抗議文を送っています。

平和の像は1987(昭和62)年、平和を望む市民の寄付金等を基に、戦争による犠牲者の霊を慰めるとともに、核兵器の廃絶のシンボルとして王仁公園内に建設されました。



核兵器廃絶のシンボル
平和の像
「恒久平和」
作/池田 遊子

非核平和都市宣言

全世界の平和と安全は、全人類共通の念願であり、よりよい生活を築き、守り、維持していくための基本理念であります。

しかるに、それらの念願、理念に反して、究極戦争の道具である核兵器は、依然として拡充、拡散され、人類の生存に深刻な脅威を与えています。

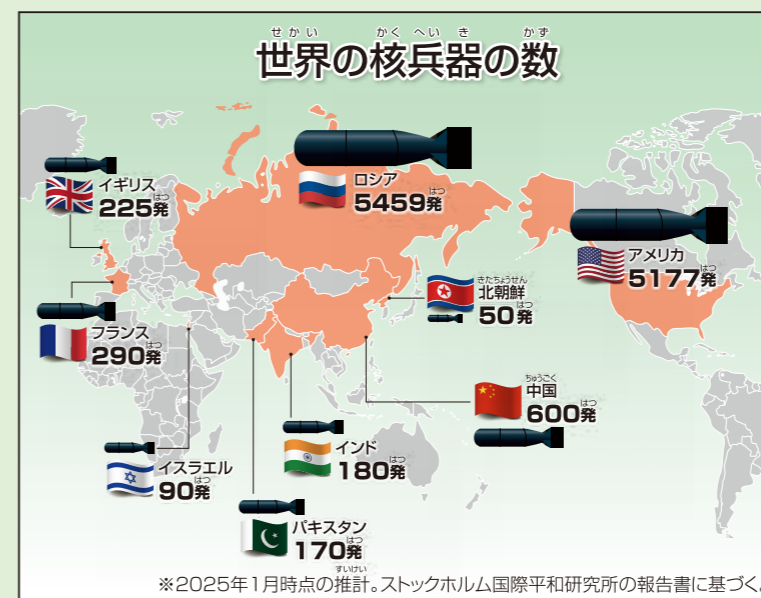
私たちは、原子爆弾投下による被爆の体験を通して、平和を希求する誇り得る憲法を持ち、戦争の放棄を誓っています。

地球上から戦争と核兵器をなくすことは、日本国民の責務であります。平和を求め、核兵器廃絶を叫ぶ大衆の声は、ここ数年、時を追って大きくなってきています。

枚方市は、平和を愛する人達の住む町として核兵器の廃絶、製造設備及び手段の廃棄を訴えて、ここに非核平和都市となることを宣言します。

1982(昭和57)年12月21日

核兵器の恐怖



世界に目を向けると、9カ国が核兵器を持っています。スウェーデンのストックホルム国際平和研究所によると、現在、世界にある核兵器は1万2241発。1980年代半ばの7万発からはずいぶん減りましたが、それでも人類が減るには十分な数です。

なぜ、核兵器はなくなるのでしょうか。それは、「核兵器を持っていれば、他国は攻撃してこないだろう」と考える国があるからです。